

校長室から

9名が卒業していきました

9名の角山っ子が巣立っていきました。特に今年度の6年生の一年間は、最高学年としてドキドキしながら過ごした時間だったでしょう。

新型コロナウイルス対策をしながら、一方で通常の教育活動に戻していくために、いつ中止になるかどうか心配を教職員と共有した6年生たちでした。

いつ感染者が出てもおかしくない状況がずっと続いていました。大運動会も、宿泊する少年自然の家、夏祭り、バスでの奈良・京都修学旅行、岡山市音楽発表会、秋の遠足、角山振興まつり、田植え・稲刈体験、ローラースケート大会、卒業式と、振り返ってみただけでも本当にできるのか、行事の後に感染者は出ないのか心配してもしきれない不安やドキドキ感を共有しながら過ごしてきました。

しかし、この6年生は最高学年として当然出てくる不安を、下学年には一切見せることなく、伝統の角山の教育活動を復活させて手本として示してくれました。

予測不能の時代です。今までに経験のない、本当に大丈夫かという不安の中で自分や自分たちの地域社会を切り拓く力を身に付けた角山っ子に育ってくれました。大丈夫です。どうか、新しい社会を創り出してください。

支えていただく学校、今も昔も・・・ありがたい！

- ・定年を迎えて、何か学校や地域の子どものためにやれることはないかと、かつての角山っ子の同級生2名がそろって校長室にたずねて来てくださいました。
- ・90歳を超える母親が角山小を卒業したと聞き、卒業原簿を見せてほしいと職員室に来てくださいました。
- ・母親が卒業生なので、矢野恒太さんの業績を残す手伝いをしたいという方がこられました。
- ・ローラースケート場をつくるときはとても寒い冬で、当時のPTAの方がコンクリートを乾かすため、夜中寝ずの番をしてたたき火で温めて乾かしてくれました。
- ・昭和のはじめの頃、遠足で大型バスを頼んだところ、費用が足りなくなり、本校出身の方が寄付をしてくれました。
- ・今は学校の西にある大きな石の「忠魂碑」が75年前には本校の運動場にあり、村の人が集まって今の場所に移していただきました。
- ・図書館に何百万円分もの本を寄付して下さった方がおられました。
- ・昔、音楽のピアノが高くて学校では買えないので、卒業生に寄付をしてもらいました。
- ・山陽新聞桃太郎賞（活動の様子について3月26日新聞朝刊に掲載予定）決定の記事を読んで、現在80歳の卒業生の方から励ましの電話をいただきました。
- ・伝統のローラースケートの技を在校生に伝えたいと、卒業生でもある保護者が休みを返上してコーチにきてくださいました。
- ・原因不明の停電で困っていた時、分かるかもしれないと仕事の帰りに配電盤を調べに来てくださった卒業生の方がおられました。
- ・矢野恒太さんの創った会社の方が、矢野さんの過ごした小学校を見てみたいとわざわざ来校され、後輩や保護者の方に矢野さんの業績を話してくださいました。